

2/2開催 木構造テラス1周年セミナー

林経新聞(2/16号)に掲載されました。



### 情報提供で木構造推進

木構造テラス 設立1周年セミナーに170人

「構造設計実務者が必要とする地に足の着いた設計情報の提供」を目的とする「木質構造の設計情報を共有する会(通称「木構造テラス、實成康治代表)」の設立1周年記念セミナーが2日、東京・新木場の新木場タワーで

開催された。当日は設計士ら170人超が参加し、木構造の第一人者である五十田博氏(京都大学教授)と、「木の活かし方」を大きな視点から研究する網野慎昭氏(法政大学教授)の講演を聞いた。冒頭、實成代表は「木

構造への関心は高まっており、皆さまのおかげで木構造テラスも社団法人になることができた」と謝意を示した。続いて「非住宅の木質化、公共建築物の需要は2000~10000平方メートルの物件に移り、裾野が広がってきた。ビジネスチャンスは拡大しているが、構造を担える設計士が少なくニーズに答えられてい

ない」として、同会を通じて情報を共有し、木構造に参加してほしいと呼び掛けた。京都大学・生存圏研究所の五十田教授は「熊本地震被害に学ぶ木構造設計の留意点」と題し、熊本地震の被害分析を通して分かった知見を伝えた。同氏は旧耐震基準と2000年以降の耐震基準で建てられた住宅

との被害状況の違い、大破した建物でみられた耐震設計上の配慮不足、被害を大きくした原因などを説明し「当たり前前のことではあるが、地震被害を最小限にとどめるには正しい設計・構造計画で正しく施工することが重要。余裕を確保した建物をつくっていったほうがいい」と語った。なお木構造テラスは



会員向け設計スクールを隔月開催している。詳細は専用サイト(<http://www.t-e-terrace.com/>)へ。